

ギャラリー おほもと



シアタールーム

大本の芸術にまつわる紹介映像を上映しています。開場時間内にいつでもご覧いただけます。



シアタールーム映像リスト

- 耀盃 ～出口王仁三郎の楽焼～ 12min
- 天真爛漫 出口すみこの書 8min
- 法成の面影 10min
(亀山城と大本の関わりを紹介)
- 大本のあゆみ 17min
(大本の開教から歴代教主・教主補の軌跡)



電車で JR京都駅から亀岡駅まで普通電車で30分
亀岡駅から徒歩約10分

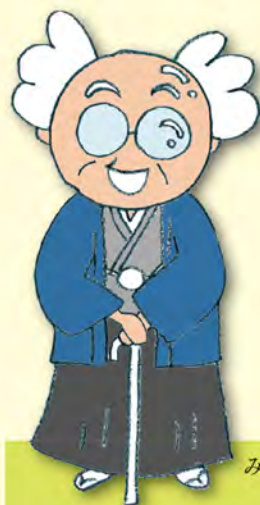


マイカーで 京都縦貫道 篠ICから約10分



図録「根源の美」

絵画や陶芸など、美しい芸術作品に出合った時、人は理屈めきで感動します。美には、人の心を豊かにし、うるおいを与える力があります。京都府亀岡市にある大本の聖地・天恩郷には、年間を通して大本の芸術作品が拝観できる「ギャラリーおほもと」があります。ぜひご来観ください。



みろく博士

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





ギャラリーおほもと

京都府亀岡市天恩郷 みろく会館2階
入館時間：9:30～16:30 (閉館17:00)
休館日：月曜日 (祝日の場合は火曜日)
入場料：300円



作品の解説もします。
お気軽にお申し込みください。

大本楽天社事務局
TEL 0771 (56) 9071
FAX 0771 (22) 9924
E-mail: rakutensha@oomoto.or.jp

大本の聖地・天恩郷にある「ギャラリーおほもと」では、大本の歴代教主・教主補が制作した書画・陶芸などの芸術作品のみを展示しています。大本で生まれた芸術の世界をご堪能ください。

これは、希代の芸術家であり、美食家として知られた北大路魯山人が、王仁三郎聖師とその一門の芸術作品に出合った時に述べた感動の言葉です。

王仁三郎聖師同様、大本の歴代教主・教主補らは自ら芸術に親しみ、生み出された作品は国内外の多くの有識者に賞賛されています。

「王仁三郎聖師、すみ子刀自、直日様と、大本一門にはずばぬけた大物がそろっている、これは君イ、大変な出来事だよ！」

王仁三郎聖師同様、大本の歴代教主・教主補らは自ら芸術に親しみ、生み出された作品は国内外の多くの有識者に賞賛されています。

そして、「芸術は宗教の母」と提唱し、自ら芸術活動に励みました。

芸術は宗教の母



大本歴代教主・教主補の芸術作品

※展示品は、企画内容によって変更されます



芸

尊師(三代教主補)：出口日出磨書
日出磨尊師は、学生時代に思念や道義について書き連ねた覚書ノートを元に『生きがいの探求』を出版。有識者の好評を得、ベストセラーに。



鉄絵「篁文」水指
三代教主：出口直日作

石黒宗麿(陶芸家・人間国宝)が「人間性の高さが結晶されている」と評した直日三代教主の作陶。茶道、書、能楽など幅広く活動しました。



自画像「きおつよくひろくおほきくこまやかにあたたかみあるひとになりたき」
二代教主：出口すみこ書

お筆先を見て文字を覚えたとすみこ二代教主。その書を見た北大路魯山人は「少しも気取ったところがなく、まさに天衣無縫！」と感嘆の声をあげました。



粉引呉須絵梅松文茶盃「うぶごえ」
五代教主(当代)：出口紅作

紅当代教主は、大本の聖地内(綾部)に窯芸道場、機織工房、農園を備えた「鶴山みろく村」を開村。数多くの作品が生み出されています。



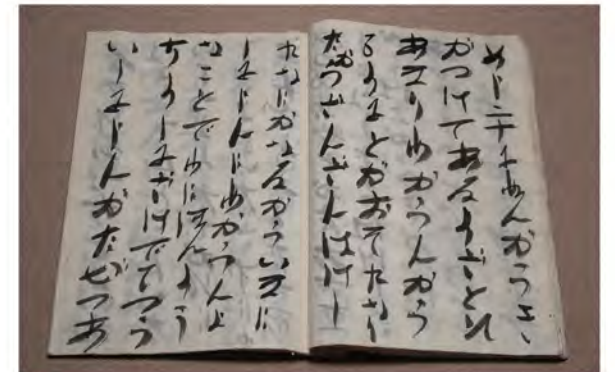
嘉
四代教主：出口聖子書

聖子四代教主は、能、八雲琴など日本の伝統文化に精進し、ニューヨークやイギリス・カンタベリーで、能「羽衣」を演能しました。



楽焼「伊都能売観音像」

聖師：出口王仁三郎作
身丈約150釐、胴周り約140釐の観音像は、楽焼の陶像です。王仁三郎聖師の等身大といわれています。



お筆先
開祖：出口なお

明治25年、読み書きのできなかった開祖が帰神状態となり、神の言葉を自動書記で書き留めたのが「お筆先」。昇天までの27年間で半紙20万枚に及びました。



耀盃「御遊」

聖師：出口王仁三郎作



耀盃「深山」

耀盃は王仁三郎聖師が、晩年の約1年間に作った3000個ほどの楽焼茶盃。聖師没後に、その数点を目にした陶芸評論家の加藤義一郎氏が「これこそ明日の茶盃」と評して「耀盃」と命名しました。